

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区 分	1.森づくり 4.森と暮らし	2 森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 信仰	(ふりがな) しんこう	
地域独特の呼び方	山の神講		
タイトル	平組の山御講		
伝承地域	相馬市山上字山岸		
由 来	山岸の一つの組である平組で行っている山御講		
内 容	<p>山上の山岸は平組、中組（おもてともいう）下組に分かれており、このうち平組は一四戸あるが、山御講に加入しているのは六戸もしくは七戸である。以前は集落全戸が加入していた。この集落（平）は冬場になると一年間使うだけの薪作りをしていたところで、山を仕事場にしていたために佐須（飯舘村）の山の神様を信仰した。おそらく他の集落でも山御講は行っていたと思う。</p> <p>旧暦十月十七日と正月十七日に山御講をする。今は違うがかつては女性が手をかけることができないので、男だけで餅を搗いたり料理を作った。秋の山御講の前にはあらかじめ宿の人が佐須の山津見神社に行ってお札を受けてくることになっている。東日本大震災以前は飯舘村佐須にある山津見神社の祭礼は旧暦十月十五日から十七日までの三日間開催されているため、自家用車で前日か当日の午前中にお札を請けに行けば間に合うが、自転車で行ったところは往復に時間がかかるため、神社に泊まり込み飲み食いして請けてきた。佐須の山御講のころは天気が荒れるといわれており、道路が凍って往復に難儀したこともある。</p> <p>秋の山御講</p> <p>平成二十一年十二月二日の秋の山御講は午後四時に宿を務めるF宅で行われた。床の間に神像を描いた「山津見神社」の掛け軸をかけて、その前に榊、灯明と、野菜、魚、重箱にいったん饅頭を供え、請けてきた山の神のお札も添えておく。まず神前に講員が柏手を打って礼拝してから直会に入る。掛け軸は先代が請けてきたもので、こうした什器類は宿に当たった家で一年間預か</p>		

	<p>る。供えたお札は帰りがけに頂いて家に持ち帰る。御講がないとなかなか集まる機会もないので大切にしている。現在は飲食も折をとる。ただこの山御講では油揚げとキノコ、ゆで卵、ホウレンソウを添えた餛飩を作って振る舞う。かつては、秋の山御講は宿になった家で一升ずつ餅を搗いて食べ、正月の山御講は餛飩と決まっていたが、最近秋の山の神講にも餅にしないで餛飩を食べることが多くなった。</p> <p>一升餅は持参した糯米を搗き、すべてをその場で平らげないと講を終えることができなかったという。その後は持ち寄りのコメが五合に半減し、さらに二合五勺に減った。餅はツヨ餅（ツユ）餅とあんこ餅にするが、ツヨは山で獲った山鳥や雉の肉を出汁にしたがその後は鶏を潰して使った。一升餅を食うのは大変で若者たちは力試しの石を担ぐなどして腹を減らしたという。この石は今も山津見神社の境内に残っている。もっとも小食の人は、アンコすすりといって餡餅の餡だけを啜らせられたり、後片付けを押し付けられたりしたという。（岩崎真幸調査）</p>
文化財等の指定状況	
問い合わせ先	

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1部ご恵与ください。